

K I N G O F S N A K E S キング オブ スネークス

ヘビ年なので、今回のテーマはヘビです！歴史上は、生と死、生命力と恐怖、裏切り、長命、進化、謎……。ヘビは、神か悪魔か、未だに見方が割れていることが多いですが、各文化では無視できない存在です。

自然界では、生態系の上位であり、下位でもあるため、立ち位置が複雑で、実に重要な存在です。ヘビは、恐竜がいた時代に、脚のある爬虫類から進化し始め、脚をなくす代わりに、長い胴体に特化する道を選んだ生き物です。地面に潜るのが上手で、長期間栄養を摂取しなくても生存ができるように進化しました。そして、巨大隕石によって、地球の生命が大量に絶滅した説では、ヘビの進化は存続するのに有利だったと考えられ、その後のヘビ類の多様化に繋がって現在まで生き抜いています。

このように、深い話のつきない「ヘビの世界」は我々の身近にあります。

あきる野のヘビ

市内では、本州に生息する8種の陸生のヘビを全て見ることができます。最も身近で、一般的によく知られているのはやはりアオダイショウ（見出しの写真）でしょうか。最大のヘビで、様々な環境で見かけるため、ヘビ代表格です。

ほとんどのヘビは毒を持ちませんが、毒はなくても、様々な生き物を餌にすることもするため、噛まれると炎症や破傷風などを起こすことがあります。このため、基本的に触れ合わない方がよいでしょう。一方で、距離を保って観察してみると、興味深い場面に恵まれる機会もありますので、色々な意味で、ヘビから目を逸らさないでください！



幻ではなかった、シロマダラ

幻のヘビと呼ばれるシロマダラ（上）ですが、市内では、里山環境の民家付近などでも普通にいることを確認しています。本州の陸生のヘビの中で最も美しいと言っても過言ではありませんが、基本的には夜行性のため、見る機会が少ないので、レア物とされています。

涼し気な環境を好むニホンマムシや、夜行性で地下生活が多いタカチホヘビ（下）と同様、シロマダラは高温にならない初夏や初秋、または大雨の後に見かけることが多くなります。

マムシは大人しい生き物

ニホンマムシ（上）は、基本的に近くを歩いても動かないほど大人しいですが、特に産卵直前のメスは攻撃的になります。念のため、距離を置けば噛まれる被害に遭うことはないでしょう。

はっきりとした綺麗な模様からほぼ無柄までと、個体差が大きいので、他のヘビの柄に似ていたりするので、見慣れない方が見分けるのは難しい場合もあります。また、落ち葉などの上で休んでいると目立たないため、誤って触れてしまうこともありますので、やはり、よく見て気を付けましょう。



毒ちょうだい

ヤマカガシの毒は、ニホンマムシの毒性よりも強く、人間に大きな害があるとよく聞きます。しかし、ヤマカガシの牙は口の奥にあるため、噛んでも毒を注入することができないこともよくあります。

研究者によると、ヤマカガシは、そもそも毒はなく、猛毒であるアズマヒキガエルを捕食し、その毒を利用することができる珍しいヘビです。昨年見たヤマカガシ(下)が飲み込めないほどの大きなアズマヒキガエルを必死に捕食しようとしていたのはまさにその証でしょう。



* 皆さん、ヘビ以外にも、野外には多数の危険が潜んでいるので、頭上、目線、地面をよく見てください。

ヘビはいない？それとも見ない？

昔に比べてヘビが減ったという話を伺うことが多いです。それは数が減ったのもあるかもしれませんが、ただ見かける機会が減ったということもあるでしょう。例えば、生息するため、温暖な気候を必要とする爬虫類ですが、高温過ぎると不調になるため、近年の高温により活動の時間帯や場所などに変化が起きていると思われます。

とにかくヘビとの出会いは不規則です。今日は会えると思っても会えずに終わり、期待していなかった時こそ出会えるのがヘビです。

今年こそ、あなたもヘビに会いたくなりましたか？



木登りも、水上移動も器用になれるヘビが多いので、いろいろな場面で見ることができます。

(左)アオダイショウ・(右)シマヘビ。

さわわ、さわわ～



初秋の

この時期は沢が涼しいし、せせらぎの音や周りの生き物に癒されますね～

豪雨や増水などに注意し、地域や自然にも配慮しながら、満喫してください！

今年、よく見かけるこの生き物。ガのようですが、違います。気になる方はいませんか。近年急増した外来種のチュウゴクアミガサハゴロモです。

在来のアミガサハゴロモによく似ていますが、翅の白い斑点が小さいです。植物を汁を吸うため、農作物などに被害が出ているようです。

またも外来種

